

「4大大会2023 in 南高」(ファイナルステージ)

今年最後のビッグイベント「第61回大運動会」が弘前運動公園オリンピックスタジアムで行われました。総合ポイント15点で首位を走る青組(IIHR)を筆頭に、各HRの勝利への執念と情熱がこの秋空を真っ赤に染めています。担任団から決戦前の意気込みを聞きました。

青組担任 「強いから勝つんじゃない、勝った方が強いんじゃー」・・・・なるほど!(恭)

桃組担任 「今を戦えないものに、次とかまたとか言う資格はない!」・・そりゃそうだ!(恭)

橙組担任 「夢は逃げない、逃げているのはいつも自分だ」・・・・逃げないで頑張れ!(恭)

黄組担任 「死ぬことはないから、死ぬ気で頑張れ!」・・・・・・熱いっす!(恭)

緑組担任「転んだ人を笑ってはいけない、彼は歩こうとしたんだ」・・・・・?(恭)

以上のように決戦前から勝利への執念がひしひしと伝わっております。勝利の明暗を分けるのは団体種目をいかに制するか。今回はその激戦についてレポートしましょう。

まずは、南高名物「玉入れ大会」について説明しなければなりません。古くは本校創立にさかのぼる歴史と伝統を誇るこの玉入れ大会。毎年熱い戦いを繰り広げてきましたが、近年はその情熱がさらに加速する展開になっています。それは選手たちの闘争本能の連鎖反応と、この戦いに対するサディスティックな精神が、太古の昔から選手たちの心に眠るサバイバル魂に火をつけたにほかなりません。過去にはけが人が続出し、その数は天文学的数に上るといわれるこの玉入れ大会も、近年では「紳士のスポーツ競技」として認知されるようになりました。数年前には、オリンピック公式種目承認のため、本校を中心にロビー活動を活発化させているとかいないとか。今後のIOCの動向が注目されます。



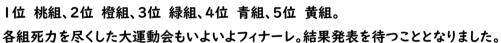


さて、南高61回生が雌雄を決する「玉入れ巌流島」。フィールドには各クラス全員の総勢200名が集結。色とりどりのハチマキは、まさに豪華絢爛。開戦を告げるホラ貝が鳴り響くと、一気にカラフルボールが乱れ飛ぶ「逆噴水状態」。残り30秒を切ると各チーム激しいにらみ合いでカゴはあふれる寸前までヒートアップ。そして混戦状態のまま終了のホラ貝が鳴り響きました。結果は

以下の通り、緑組の圧勝となりました。

- |位|46個 緑組、2位||9個 桃組、3位||6個 橙 組、4位||0個 青組、5位97個 黄組。

最後の種目は、各組最強の布陣で臨む「HR対抗リレー」です。総合優勝を見据え、各チームとも最後の力を振り絞ります。スタンドは今日一番の盛り上がりをみせ、決戦にふさわしい熱気とボルテージ。今か今かとスタートを待ちわびています。そして、スタートの合図とともに会場は最高潮。各チームとも必死に魂のバトンをつないでいきます。出入りの激しいトップ争いを演じた熾烈な戦いも、あっという間に最終ランナーにバトンをつなぐと、5チームが横一線に並ぶ大混戦。最後のIOOMは「スタンドの声援が力になる、待っているチームメイトの笑顔が力になる~」とばかりに5人とも必死の形相。そこで抜け出したのが優勝候補の桃組アンカー。その疾風する姿は天国への案内人か、風神雷神、韋駄天の走りで一気にゴールテープを突き抜けていきました。



|位|35点 桃組、2位|2|点 緑組、3位|08点 橙組、 4位97点 青組、5位86点 黄組。

大運動会の結果を受けて、「4大大会2023 in 南高」も総合順位が確定致しました。奇跡の逆転優勝、カナコTの雄叫びは炸裂するのか!?結果は以下のようになりました!!

総合優勝は総合3位からの大逆転を演じた12HR。続い

て第2位は、前回3位から逆転優勝にはわずかに届かなかったものの、15HRがランクインしました。第3位は総合 I 位から順位を下げてしまった I I HRとなりました。6 I 回生の皆さん、学校行事を一生懸命楽しみましたか?我々 I 年次教員団は、皆さんの笑顔や一生懸命楽しむ姿を見ることが最高の喜びです。熱い戦いをありがとう!! 本当にお疲れ様でした。

| 年次通信は弘前南高校 HP でも閲覧できます。 | http://www.hirosakiminami-h.asn.ed.jp/







総合順位		
1位	12HR	18P
2位	15HR	16P
3位	11HR	15P
4位	13HR	13P
11	14HR	13P